

「けいはんな新世紀戦略プログラム」に基づく

平成 14 年度の活動報告と平成 15 年度の活動方針（案）

平成 14 年度の活動報告

1. 総 括

長引く経済の低迷は、本都市への新たな施設立地や既存施設の研究活動に徐々に影響を与えている。平成 14 年度は、こうした厳しい環境の中でも国の中核施設である「国立国会図書館関西館」、「私のしごと館」の開館を迎え都市に活力を与える効果が期待できることとなった。また、本都市の活性化を図り、技術革新と新産業創出による関西経済の再生とわが国の国際競争力回復に寄与するため、平成 12 年度に策定された「けいはんな新世紀戦略プログラム」に基づき、立地環境整備をはじめとする各種プロジェクトの推進に引き続き取り組んできたところである。

立地環境整備においては、けいはんなプラザ・ラボ棟からの初めてのベンチャー企業都市内自立となる「ウェスコム㈱情報技術研究所」、中堅・中小企業の研究所である「三晶㈱中央研究所」が開所されるとともに、同じく中堅・中小企業の「研究開発型産業施設」が 2 件立地される予定となり、誘致対象施設の拡大の実現と、多様な主体の立地が図られた。

交通基盤整備においては、第二京阪道路が一部開通したことにより、本都市が全国高速道路網と直接接続されるとともに、京都市内へのアクセスが大きく向上された。

国の支援事業として、融合型公共交通システム「けいはんな ITS 研究開発事業」の社会実験が開始され新しい交通体系の確立を目指すとともに、知的クラスター創成事業「ヒューマン・エルキューブ産業創成プロジェクト」がスタートし新産業創出に結びつく取り組みが行われた。

また、特に緊急に取り組まれた国の立地環境整備の制度といえる「構造改革特別区域計画」においては、知的人材の国際化と研究開発の国際化及び外国人、民間、大学の能力を生かした産業の再生、校地面積基準引き下げによる大学誘致を目的とした「けいはんな学研都市知的特区」が認定された。さらに、「技術政策とイノベーションに関する第 6 回国際会議関西 2002」を開催し、本都市の国際的な拠点性の向上に期する取り組み等も行われた。

以下に、セカンド・ステージ・プランの取り組み経過と新世紀プログラムのローリングに向けたロードマップ（案）及び平成 14 年度の取り組み成果を示す。

セカンド・ステージ・プランの取り組み経過と 新世紀戦略プログラムのローリングに 向けたロードマップ（案）

セカンド ・ステージ ・プラン 「答申」

4部会による検討

- 2005年頃を目標とする「都市像」

文化創造・交流都市

- 文化創造の中枢形成
- 文化の薫るまちづくり

先端的学術研究都市

- 新たな学術研究交流の構築
- 研究・技術・地域住民の交流の推進
- 国際的な学術研究情報拠点の形成

新産業創出都市

- 技術の産業化促進拠点の形成
- 立地優位のサテライト・パークの形成

パイロット・モデル都市

- 多核連携型都市の形成
- 新たな交通体系の形成
- 文化の薫り高い都市景観の形成

「実現化を目指して」
(H10年5月)

- 概ね10年間の優先的
取り組みと推進方策の
とりまとめ

文化分野における取り組み

学術分野における取り組み

産業創出分野における取り組み

都市分野における取り組み

アドバイザー会議

(学識5先生・機構
・国交省(オブザーバー))

推進企画委員会

- ①体制の強化(3府県・関経連・公団の参加)
- ②戦略プログラムに基づくSSPの加速度化
- ③重点プロジェクトの抽出(分野横断性・重点化)

12年度

13～14年度

15年度

16～17年度

「新世紀戦略プログラム」
(H12年5月)

重点プロジェクト 実現化プロジェクト の評価・見直し

●重点プロジェクト

立地環境整備プロジェクト

(■15年度項目順位の調整・ベンチャー企業立地支援強化先取り)

情報ネットワーク推進プロジェクト

交通基盤整備プロジェクト

研究成果情報発信・交流プロジェクト

共同研究活性化/研究成果情報収集・交流プロジェクト

- 重点プロジェクト或いは重点プロジェクトに呼応して取り組む国の支援事業
並びに国の支援事業として導入を目指す取り組み
(■ITS社会実験/■知的クラスター創成事業/■メディカルコンプレックス構想)

(文化分野)文化振興プロジェクト

(学術分野)都市内大学連携・交流プロジェクト

(産業創出分野)技術の産業化促進拠点形成プロジェクト

(都市分野)パイロットモデル都市形成プロジェクト

(情報分野)情報発信強化プロジェクト

●実現化プロジェクト

(文化分野)文化振興プロジェクト

(学術分野)都市内大学連携・交流プロジェクト

(産業創出分野)技術の産業化促進拠点形成プロジェクト

(都市分野)パイロットモデル都市形成プロジェクト

(情報分野)情報発信強化プロジェクト

(産業創出分野)施設誘致促進プロジェクト

IASP関連活動プロジェクト(学術分野)

研究開発用ギガビットネットワーク整備プロジェクト(産業創出分野)

継続

8年度

9年度

10～11年度

12年度

13～14年度

15年度

16～17年度

2. 重点プロジェクトの取り組み成果

(1)立地環境整備プロジェクト

○立地環境整備の具体化

- ・「研究開発型産業施設」の立地が、精華・西木津地区の「文化学研究ゾーン」において2件予定されることになった。
- ・津田地区においては、誘致対象施設の拡大に向けた用途地域変更をはじめとする手続きが進められることとなった。
- ・「(仮称)ベンチャー・テクノエリア」の制度・施策面を行政を中心として整備中であり、次年度も引き続き取り組む。
- ・京都府では、学研都市域の研究シーズを活用した中小企業と大学等との共同研究に補助を行う「けいはんな新産業フロンティア創出事業」が創設されることとなった。

○外資系企業、中小・ベンチャー企業誘致の取り組み強化

- ・関係機関連携による「IJSP(対日投資招聘事業)」「けいはんな都市視察会」を実施したほか、「ベンチャーエキスポ2002」「産学官技術移転フェア2002」など都市外の展示会に積極的に出展し、PR活動を展開した。

○ベンチャー支援の展開

- ・「京都府けいはんなベンチャーセンター」に平成13年度設置済みの8室の募集を実施した(応募24社)。
- ・(株)けいはんなの独自支援策として、低賃料設定、ハーフルーム設置(4室)を行い4社が入居した。
- ・津田地区「津田サイエンスコア」内にインキュベートルームが4室開設された(応募5社)。

(2)情報ネットワーク推進プロジェクト

○地域共同利用ネットワーク(精華・西木津地区)の強化

- ・アクセス組織(国際高等研、RITE、ATR、精華町、大川センター等)を中心に、他組織(国立国会図書館関西館、日本原子力研究所研究所関西研究所等)とも意見交換会を行いネットワーク環境整備について方向性を検討した。
- ・基幹回線の確保、デジタル新聞ニュースビューの無料配信実験、国立国会図書館WARPへコンテンツ提供を実施した。

○日本原子力研究所ITBL構想の推進

- ・日本原子力研究所関西研究所ITBL棟が運用開始されたとともに、「けいはんなITBL技術普及・利用動向調査委員会」がスタートした。

○高度通信実験用ネットワーク(ギガビットネットワーク)の利用促進

- ・近畿次世代高速ネットワーク推進協議会等と連携して、超高速通信実験用回線の利用促進に向け公募説明会、セミナー、視察会を開催した。その結果、けいはんなTAOでは、利用機関21機関(研究テーマ27件)視察70団体(991名)の情報交換等に関する成果が得られた。

(3)交通基盤整備プロジェクト

○交通基盤の整備

- ・第二京阪道路が一部開通したことにより、学研都市から全国高速道路網に接続されるとともに、京都市内へのアクセスが大きく向上した。
- ・国立国会図書館関西館等の開館に合わせたアクセス向上のため、山手幹線及び精華大通り線の精華町役場前から精華学研 IC まで 4 車線化された。
- ・高山地区関連道路の都市計画決定がされたことにより、今後の整備促進が期待される。
- ・木津南地区～高の原駅直通バス、木津町巡回バスが運行開始されたため京都方面並びに木津町域内のバス利便性が向上した。

(4)研究成果情報発信・交流プロジェクト

○「けいはんな研究論文抄」のホームページ掲載

- ・都市内研究 7 機関から推薦のあった 40 編を「けいはんな研究論文抄」としてまとめ、学研推進機構ホームページに掲載した。5,000 件以上のアクセスがあり、掲載者へのアンケート及びヒアリングから主旨への理解・賛同が得られた。

3.重点プロジェクトに呼応して取り組む国の支援事業並びに国の支援事業として導入を目指す取り組み

新世紀戦略プログラムの中で、他のプロジェクトと連携してセカンド・ステージ・プランの実現化に向けて大きな相乗効果が期待できるプロジェクトとしての取り組み

(1)融合型公共交通システム「けいはんな ITS 研究開発事業」

- システムの動作確認とシステムの完成度向上を図ることを目的に 2 ヶ月間の住民参加の社会実験を実施した。
- デマンドバス利用者は、実験開始当初から比べると確実に増加傾向が続き、さらに知名度が向上するにしたがって需要が見込まれるため、15 年度の本格実験に対する期待を強めた。
- カーシェアリング利用者は、住民利用は低調であり、企業の社用利用が目立ったため効率向上を図る必要が生じた。

(2)知的クラスター創成事業

- 「事業推進本部」が発足するとともに、都市内 3 大学を中心とする個別プロジェクト会議もスタートした。プロジェクト参加 36 企業・団体による共同研究契約が完了し、関連する特許出願件数も 26 件に及ぶなど一定の成果が出始めた。

(3)関西文化学術研究都市メディカルコンプレックス構築プロジェクト

- 大阪圏ライフサイエンス推進協議会において、「関西圏におけるライフサイエンスの国際拠点形成基本構想」の中で、関西圏ライフサイエンスの国際拠点を形成するバイオ産業プロジェクトとして位置付けされるとともに、臨床応用研究の役割も明確化された。また、ドナー開発の普及・啓発と本プロジェクトへの社会的認知を広げることを目的に「けいはんな・市民公開 メディカル・シンポジウム」を開催した。

4．分野別実現化プロジェクトの取り組み

(1)文化振興プロジェクト（文化分野）

- 「国立国会図書館関西館」等の活用事業
 - ・「国立国会図書館関西館」の開館に合わせ、シンポジウム、見学会等を開催し周辺に対する活用促進 PR に努めた。
- アート＆テクノロジー事業の推進
 - ・芸術と先端技術を融合した新しいデジタル文化の拠点を目指し、メディアコンサートを中心に、ワークショップ、インスタレーションを併設した「けいはんなメディアフェスティバル 2002」を開催した。
- 地域文化活動の活性化
 - ・「ラ・プリマベラ 2002」,「オータムフェスタ 2002」等の自治体、立地施設、NPO 法人等と連携したイベントを実施し、地域文化活動の活性化を図った。

(2)都市内大学等連携・交流モデルプロジェクト（学術分野）

- 「市民公開講座」の実施
 - ・学研都市内 6 大学による「市民公開講座」（各大学 1 講座）を開催し、都市内大学と地域住民との交流・連携の場として好評を得た。

(3)技術の産業化促進拠点形成プロジェクト（産業創出分野）

○周辺地域との産学官交流会の実施

- ・同志社大学、大阪電気通信大学、奈良先端科学技術大学院大学を中心として、周辺地域との技術高度化支援のためのネットワーク構築を目指した産学官交流会が大幅に増加し、新産業創出に向けた取り組みの拡充が図られた。

(4)パイロットモデル都市形成プロジェクト（都市分野）

○けいはんな・フィールドミュージアム・ウォークの実施

- ・「けいはんなフィールドミュージアム構想」の実現に向け、市民参加と都市域行政共同の地域イベント「けいはんな・フィールドミュージアム・ウォーク」の定着化に取り組み、市民と行政の参加の幅を拡大した。

(5)情報発信強化プロジェクト（情報分野）

○インフォメーションボックスの拡充

- ・登録会員数は 800 件と微増であるが、配信数は 180 件と順調に推移し、都市内の研究者・住民間の情報の迅速な流通、共有化が図られつつある。